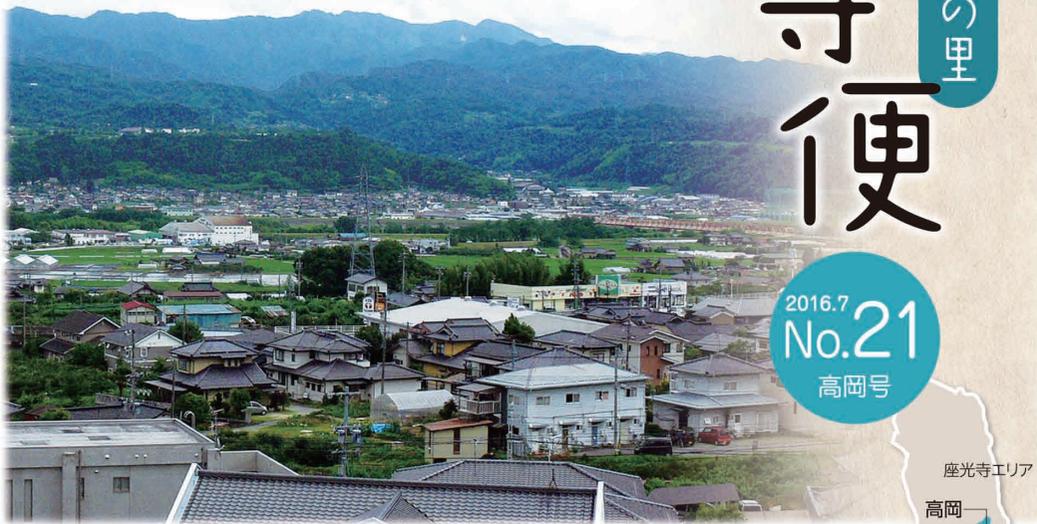


座光寺 19地区探訪⑨ 高岡



信州飯田 座光寺便

麻績の里

2016.7
No.21
高岡号

座光寺エリア
高岡
戸数:100戸
(H28.3現在)

50年代末にはバイパスが地区の真ん中を貫通しました。その後宅地造成が進み、戦前は30戸にすぎなかった世帯数は、現在その3倍以上に増加しました。

上野新町より望む。右手が高岡の森



高岡といえば「高岡1号古墳」が広く知られていますが、古墳は地区の中央ではなく、西隅に位置しています(次頁地図)。古墳の印象が強く、古くから拓けた感を受けますが、昔は恒川清水から移り住んだ人が多かったといえます。

旧道沿いに運送業、石材業、筆筒製造等を営む店もありましたが、高岡の大半は農家でした。かつての桑園は高度成長期から、桃を中心とした果樹園に代わり、昭和

麻績の里 座光寺便 高岡号

平成28年7月発行 ■麻績の里ふるさと応援倶楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-221401

間伐材は今後の城跡整備に活かされる



座光寺地域自治会では、県史跡である南本城城跡の保存活用を目的とした「南本城保存活用プロジェクト事業」の一環として、県の地域発元気づくり支援金の補助金を活用し、既存の間伐材を活用した遊歩道等の整備を進めています。

その第一弾として6月19日に、既存間伐材の運び出し・皮むき作業を実施し、遊歩道の丸太階段や丸太排水路の材料として利用できるように下準備を行いました。

当日は朝8時より、財産区、自治委員、麻績の里振興委員会、歴史に学び地域をたずねる会などの座光寺地域の団体から総勢約60名が参加。約2時間半の作業に汗を流しました。

今後はこれらの間伐材を利用して遊歩道の階段や排水路をつくり、崩落部の整備を行います。長野県内有数の城跡である南本城の付加価値を高め、交流人口の増大をめざします。

麻績の里●座光寺便からのお知らせ

2000年浪漫的郷 南本城保存活用PJ始動 間伐材の運び出し・皮むき 作業を行いました。



下草刈り



皮むき作業



「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。

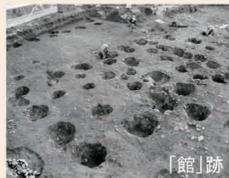
ふるさとパック 夏の味覚満載便

2,000円(送料別)

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援倶楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成28年8月20日
- お届け時期 平成28年8月末

※代金は商品到着後にお支払いください。





推定「館(厨)」跡

「館(たち)」は国司などの宿泊所として使われたところです。一般の集落と異なる建物跡や墨書土器が発見されたことから「館」跡ではないかと考えられます。



墨書土器「厨」出土地

役人の食事や儀式などで使用された、「厨(くりや)」の字が見える器が発見されました。9世紀後半(平安時代)のものでした。



正倉院跡
正倉院区画遺構

伊那郡から集めた稲などの税を収納した倉庫(正倉)の跡や、その周りに造られた大きな溝跡が見つかっています。

伊那郡衙(いなぐんが)は、古代の伊那郡を治めていた奈良・平安時代の役所の遺構です。古代の日本を知る上で重要性が認められ、平成26年3月、国の史跡に指定されました。高岡地区には正倉院や館(厨)があったとされる遺跡・出土品が確認されています。

伊那郡衙

竜東索道終着所

竜東索道は、喬木村小川渡と上村程野間16キロメートルを結んでいた、生活物資輸送のロープウェイです。輸送手段がなかった時代、遠山谷の豊富な森林資源を運び出し、また山深い集落に生活物資を届ける役割を担いました。大正8年に計画され、同12年に竣工しています。

その後、伊那電気鉄道の付設延長に伴い、昭和4年に喬木村から座光寺高岡まで延長されました。しかし営業した期間はわずかで、昭和12年に廃線となってしまいました。座光寺村史には「小川渡から白山(しらやま)付近を通り、現在の高岡消防団詰所辺りに終点があった」とあります。

高岡の森と国道の「座光寺高岡」信号を結ぶ道の、桃畑の脇にコンクリートの塊が見えます。ロープを固定する頑強な土台でしょう。土に埋もれて全容はわかりませんが、これが竜東索道・高岡終着所の名残です。



高岡1号古墳 石室内部

古墳を楽しむ

高岡1号古墳を含む13基の古墳が「飯田古墳群」として国史跡に指定答申されました。座光寺は古墳の宝庫。身近にある古墳の楽しみ方を考えてみましょう。

① 探し当てる楽しみ

古墳といえはすべてが大きいわけではありません。むしろ風景の中にボツンと佇んでいるものが多く、それを探し当てるのも楽しみです。「あれ、こんなに小さいの」と感じることで、古墳をより身近に感じられるでしょう。

② 石室をのぞこう

古墳探訪に懐中電灯は必須アイテム。石室を見つけても中が真っ暗では楽しむことができません。ぜひ中をのぞき見て、できれば入ってみましょう。

③ 古墳から受ける印象を大切に

古墳ができたのは大昔のことなので、判然としにくいことばかり。だから古墳を見たときのちょっとした印象が大切なのです。「大きい」「思ったより小さい」「石の細工がすごい」。感じた思いを大切に。

④ 想像は無量大

古墳に限らず、史跡探訪で一番大切なのは想像力。当時の地域を想像することで、古(いにしえ)の時代にタイムスリップできます。頭で考えるよりも肌で感じる事が重要。



西側から見た高岡1号古墳。写真右が「前方」、左側の盛土部が「後円」の部分



石室入り口

高岡の森(高岡1号古墳)

高岡の森(高岡1号古墳)は今年6月、市内他地区の古墳とともに、国の史跡に指定答申された、当地方を代表する古墳です。飯田下伊那地方最大級の前方後円墳(長さ72・3m、高さ6・3m)で、6世紀前半の築造とされています。

かつて石室内部は朱色に彩色されていました。これは朱色に邪悪なものを駆逐する力があると、古代の人は信じていたからだと考えられます。誰が葬られているかは不明ですが、石室の形状や構造が朝鮮半島のものと似ていることから、大陸から移り住んだ渡来人の墳墓とも想像できます。



養蚕が盛んであった頃は、この石室が蚕種の保管場として利用されました。以前の森は杉の大木が林立する暗い林地でした。上郷の高陵中学校建設の際、この杉が建材に使われたといわれます。平成19年に「高岡の森保存会」が設立されて以来、会員の手で年に数回の作業が行われています。